



Weekly Report

「ロータリーはこれからの思いづくり/原点を見つめて」

佐世保北ロータリークラブ 2018～2019 年度 RI 会長 / バリー・ラシン ガバナー/福田金治

会長/森 豊 幹事/松田信哉 例会場/佐世保市上京町 3 番 2 号 セントラルホテル佐世保 (毎週月曜日)
 創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市京坪町 2 番 3 号 Nビル 3 階 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201

E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本 日】会員数 43 名 出席 22 名 欠 席 7 名 出席規定免除会員 (14) 出席 6 名 出席率 80.00%
 【前々回】会員数 44 名 出席 22 名 メークアップ 7 名 出席規定免除会員 (15) 出席 10 名 修正出席率 100.00%

《ゲスト卓話》 「漢字の俗説を斬る！」

一墨会 井上一光氏



私どもは中国古代文字である甲骨文・金文を主なモチーフとし、『書の古典から THE ART OF CREATION』をテーマに、書の創作活動をしております。漢字は約 4 万～5 万字あるといわれ、その中で常用漢字は 2136 字あり、甲骨文・金文は各々約 2000 字が解読されています。

漢字の書体変遷は次の通りです。甲骨文 (殷代で約 3500 年前に発生、亀の甲羅や牛の骨に彫られた象形文字) ⇒ 金文 (殷代から周代で約 3200 年前に発生、青銅器に鋳込まれた文字) ⇒ 篆書 (秦代で約 2400 年前に発生) ⇒ 隸書 (漢代で約 2200 年前に発生) ⇒ 楷書・行書・草書 (西晋代で約 1800 年前に同時期に発生)

次は「土」の事例ですが甲骨文・金文の字源は、土を丸めた地主神の形で、小中学校の漢字の試験と違っ

てこの様に答えは一つではなくいろんな字形があります。一墨会における書の創作活動は、この「土」の字形の中から自分のモチーフに合うものを選び作品化することで、同じ字でも表現の仕方によりいろいろと違った作品が生まれてきます。

字源の解釈は学説上いろいろありますが、現在は白川静先生の 35 年前に発行された「字統」という字書が主流で、漢字の成り立ちを解明する 6800 字を収録しています。

白川静先生の第一の功績は、「口」の形が「口」くちではなく、神様への祈りの言葉を入れる器であることを発見したことです。

私どもが漢字の起源である甲骨文・金文で作品づくりをしていくなか、有識者でも漢字が誤って解釈されている多くの事例に気がつき始めました。楷書をもとにして字源の解釈をして、講演とかご挨拶で話をされているのをよく聞きますが、漢字の言葉遊びとしてユーモアがあって面白くなるほどだと思います。しかし漢字は甲骨文・金文から解釈をしていくことが必要で、いかにも本当のように言われているのは、中国古代文字を身近にしている者の一人として本当に残念です。そのようなことで本卓話は、「漢字の俗説を斬る！」をテーマにしました。

まず「女」にまつわる字をご紹介します。

「女」… (俗説) くのいちが女である。文字をバラして日本語読みをすれば確かにそうだが当て読み。

(本設) 跪いて両手を前に合わせた、しなやかな女性の姿。

「婦」… (俗説) 婦人とは箒を持つことが、女の生まれながらの宿命である。

(本設) 箒や叩きで、神聖な祭壇を清める夫人の姿。高貴な選ばれた女性のこと。

「姑」… (俗説) 姑とは古い女のことである。

(本設) 古は祝祷の器に神聖な兵器の盾を加えた形で、祝祷により相手に受難が起こるよう呪いをかける女。

「始」… (俗説) 女の無口は始めだけ。

(本設) 女性が耜と神への祈りの言葉を入れる器を持って、出産の無事を祈ること。

「妾」… (俗説) 妾とは男を奮い立たせる女。

(本設) 頭部に辛で入墨をさせられた女性の姿で、奴隷にされたり神に献げられる犠牲の女。

次に「人」にまつわる字をご紹介します。

「人」… (俗説) 人は一人では生きていけない、二人支えあい協力しあって生きていく。

(本設) 立っている人を単に横から見た形で、支えあうという論理的な思考とは全く関係がない。

「偽」… (俗説) 人の為に偽をいう。人間ときには偽を言わなければならない事もある。

(本設) 人が手で象を操ることで、物事が変化することから偽るの意味になる。

「儲」… (俗説) 人の言うことを信じる者が、儲かる。

(本設) 人と針を立てた器と枝や土を加えた器の形で、この組み合わせはそう単純な意味でない。

最後にその他よく使われる字をご紹介します。

「明」… (俗説) 日と月とで明るい。

(本設) 月と窓で、月光が窓から入り込む形。

「親」… (俗説) 親とは、木の上に立って子を見ている人。

(本設) 針を打った木を人が見ている形で、神木を見る字形から至れり尽くせり意味になる。

この様な事例のうち、いずれかが参考になれば嬉しいのですが、「𠂔」「人」「明」この3文字は、これを機会に是非ご理解を賜りたいです。

漢字の俗説が言われるのは、現代の日本において日常茶飯事です。しかも困ったことに引き合いに出された漢字は、本当に説得的であります。漢字の字源に関する話をすれば、聞く人の興味を大いに引くからでしょうか。その往々にして通俗的で誤った解釈は、よく出来た訓話としては面白いのですが、教育的立場からしては非常に懸念されます。皆様も、人の前でお話しをされる機会が沢山あると思いますが、漢字の字源をもとにお話をされる時は、もう一度よくお調べになるか、「本当の字源ではないかも知れないが」と、お断り

を入れて話される方が賢明かと思います。



いのうえいっこう

井上 一光 古代文字アーティスト



現代書芸家として甲骨文・金文を主なモチーフとし、中国古代文字が内包する壮大な宇宙観を白川静文字学に学びながら、書芸術のセッション『書の古典から THE ART OF CREATION』をテーマに、国内外で個展・会派展や講演を中心に活動。現代空間にも調和する書と表装のコラボレーションにも取り組み、その可能性を探求し続けている。

☆経歴

1947年(昭和22年)：福岡市生まれ

1970年(昭和45年)：立命館大学卒業

本名：井上良一 福岡市在住

1992年(平成4年)より、一墨会 主宰

21世紀書画作家国際交流協会会長・字統文字研究所 所長・福岡文化連盟会員

☆書歴

1954年(昭和29年)～1957年(昭和32年)：「西日本新聞書道会」添田翔氏に師事、書写を学ぶ。

1958年(昭和33年)～1966年(昭和41年)：

「永和」大坪藍海氏に師事、書法を学ぶ。

1963年(昭和38年)～1966年(昭和41年)：

「福岡大学附属大濠高等学校」書道部に所属、書芸術を学ぶ。

1966年(昭和41年)～2006年(平成18年)：

「立命館大学」白川静氏に師事、中国古代文字を学ぶ。

1978年(昭和53年)～1985年(昭和60年)：

「日本習字教育財団」原田観峰氏に師事、書道教育を学ぶ。

1980年(昭和55年)～1985年(昭和60年)：

「墨人会」井上有一氏に私淑、書の表現を学ぶ。

1985年(昭和60年)～1994年(平成6年)：

「亀甲会」加藤光峰氏に師事、書の創作を学ぶ。
1994年（平成6年）より、既成の書壇を離れ独自の道を歩む。

☆作品

1994年より「心象アルバム」と題する作品シリーズを随時発表

紀行シリーズ：大阿蘇、チベット、シルクロード、中国雲南、ニューヨーク

古典シリーズ：三国志、論語、枕草子、万葉集

文明シリーズ：メソポタミア、エジプト、インダス、中国

音楽シリーズ：バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、チャイコフスキー、バロックからロマン派まで、ロマン派から近代まで

哲学シリーズ：般若心経、・無常

ミュージカルシリーズ：サウンド・オブ・ミュージック、ウエスト・サイド・ストーリー（予）

☆個展

国内：東京芸術劇場・京都府立文化芸術会館・福岡アジア美術館など、東京・京都・福岡にて計2回開催

国外：台北国立歴史博物館・ソウル耕仁美術館・在オーストリア日本国大使館など、台北・桂林・青島・ソウル・ニューヨーク・ウイーン・モナコにて計15回開催

☆作品の主な所蔵先

福岡 聖福寺収蔵庫：「千光蔵」

台北国立歴史博物館：「西・東」

中国桂林美術館：「竝・石鼓文」

ニューヨーク メリルリンチコレクション：「雨」

モナコ公国文化庁：「水魚」

☆講演

福岡西ライオンズクラブ、福岡北ライオンズクラブ、福岡鶴城ライオンズクラブ、福岡中央ワイズメンズクラブ、福岡笹丘小学校、TOTO福岡、ニューヨーク テンリカルチュラルインスティテュート、他

☆著作集

1998年（平成10年）：

「中国古代文字創作講座、基礎編」

2002年（平成14年）：

「書のときめきⅠ、甲骨文・金文の世界」

2005年（平成17年）：

「中国古代文字創作講座、応用編」

2008年（平成20年）：

「書のときめきⅡ、白川文字学による甲骨文・金文の世界」

2008年（平成20年）：「骨文金貌」

2015年（平成27年）：

「中国古代文字創作講座、総集編」

2017年（平成29年）：

「書のときめきⅢ、音楽シリーズによる甲骨文・金文の世界」

《会長挨拶》

森 豊 会長

古代文字アーティスト中村一光先生の「漢字の俗説を斬る！」という本日の卓話は、漢字の魅力を感じている者としてはとても興味をそそられます。

オレンジ通信にも難しい漢字を時々ですが紹介していますので、改めて披露したいと思います。

「藁」・・・意味は木の切り株から新しい芽が出ることを言い、ひこばえと読みます。

「？」・・・植物の種から芽が出ることを言い、もやしと読みます。

それぞれの文字の下のつくりの木や米の上の文字は同じです。上のつくりには蘇生するとか、再生するとかの意味があるのではないかと思います。

何万とある漢字の中で、私達が使う漢字はたかだか2千文字くらいでしょうか？数から考えていくと、その時々々の事象から出来上がっている漢字もあるのではないかと思います。ひこばえやもやしの他にも蘇生するという意味の漢字がないものかと探してみましたが見つけれませんでした。

蘇生するという意味の漢字の下に力と書いてもう一回チャレンジするという意味で「いどむ」と読みました。いかがでしょうか？

勿論私の造語ですが・・・

《幹事報告》

松田信哉 幹事

1. 例会変更

◆有田 RC

3月26日（火）12：30～→3月30日（土）9：30～観桜会（福岡ドームや野球観戦ツアー）の為
4月30日（火）休会（定款第8条第1節により）

2. 来 信

◆国際ロータリー

2019年ロータリー国際大会：投票代議員用カード・信任状

◆国際ロータリー日本事務局

Rotary Shop/オンラインショップのご案内
② 配信履歴（～2019年2月末）

◆（一社）国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構

青少年プログラムにおける海外派遣アンケート集計報告と御礼

◆ロータリーの友事務所

次年度（2019～2020年度）雑誌委員長への『友』誌送付について 4月10日締切

◆ガバナーエレクト事務所

①2019 学年度米山記念奨学生オリエンテーションのご案内

日 時：4月7日（日）10：00 受付
10：30 オリエンテーション
（昼食準備あります）

場 所：諫早商工会館 3F 大ホール
TEL：0957-22-3323

※カウンセラーハンドブックは当日配布

◆佐世保市役所総務部秘書課

「市政施行記念式典」及び「市政功労者表彰式」の開催について（ご案内）

日 時：4月1日（月）
午前10時30分～12時00分

場 所：アルカス SASEBO 4階中ホール
記念講演：

世界一受けたい「佐世保鎮守府」の授業

講 師：河合 敦 先生

※入場無料（お申込み不要 問い合わせ 秘書課）

◆海上自衛隊佐世保地方総監部

「練習艦隊で入港行事及び艦上レセプション」のご案内

日 時：3月31日（日）
18：00～19：30（受付開始時刻：17：30）

場 所：海上自衛隊 倉島岸壁 かしま艦上
服 装：平服

3. 伝達事項

- ①エレクト事務所からのアンケート提出がまだの方は今月中によろしくお願ひ致します。（現在 29 名提出）
- ②第 9 回理事会出欠は本日までとなっております。またその他の出欠確認名簿も置いていますので宜しくお願ひ致します。
- ③3/18（月）次回例会はゲスト卓話 馬郡謙一氏です。

《委員会報告》

35 周年記念事業委員会

小西研一 委員



35 周年記念事業委員会では、35 周年記念誌の編纂を行っていますが、同記念誌に会員の皆様の写真を掲載予定です。掲載用の写真をご確認頂き、変

更をご希望される方は次回例会までに写真をご準備いただきます様、お願いいたします。

《ニコニコボックス》

八木順平 親睦活動副委員長

森 豊 会長 中野雄一郎 副会長 松田信哉 幹事

本日は、古代文字アーティストの井上一光様のゲスト卓話です。

大変興味をそそられる「漢字の俗説を斬る」というテーマです。

楽しみに拝聴させて戴きます。

中島閏二会員のお母様が 100 歳の長寿を全うされお亡くなりになりました。

ロータリーへの連絡が昨日の日曜日にあり、お通夜も昨晚でした。

告別式が本日で、例会時間と重なり、会員の皆様にはご迷惑をお掛けしますがご了承のほどお願いします。

牧野博一 プログラム委員長

本日は、井上先生に於かれましては、大変お忙しいところ福岡よりお越し頂きまして、誠にありがとうございます。

また、和田先生に於かれましてもお忙しいところ恐縮です。

今日の卓話「漢字の俗説を斬る！」楽しみに拝聴いたします。

松田亜由美君

3月25日から、長男の陸応（りくおう）が、「ハワイ留学プログラム」でハワイへ出発します。

中山さん、宮崎さん、アドバイスをありがとうございました。

- 福田俊郎君 平石晃一君 永田武義君 藤井良介君
- 緒方信行君 峯 徳秀君 蒲池芳明君 二ノ宮健君
- 松永祐司君 松尾重巳君 田島 慎君 船津 学君
- 八木順平君 小西研一君 中川信次君 茶村亜子君
- 鐘ヶ江和重君

本日の卓話は、一墨会の井上一光様による、漢字の俗説を斬る！という内容で卓話を頂いております。

皆楽しみに拝聴しましょう。

本日の合計 24,000 円 累計 1,046,000 円